

令和5年8月14日

泉南市議会議長
森 裕文 様

厚生文教常任委員会
委員長 竹田 光良

厚生文教常任委員会 行政視察報告書

下記の通り行政視察を実施いたしましたので、その概要を報告いたします。

- 【視察日】** 令和5年8月9日（水）～令和5年8月10日（木）
- 【視察参加者】**

委員長	竹田 光良	副委員長	谷藤 麻由奈
委員	添田 詩織	委員	井上 実
委員	楠 成明	委員	田畑 仁
委員	堀口 和弘	委員	岡田 好子(副議長)
- 【視察先】** ①千葉県成田市 ②茨城県行方市
- 【調査事項】** ①義務教育学校の取り組みについて
②廃校を活用した事業について
- 【視察目的】** 泉南市立小中学校再編計画において、令和10年度を目指し、義務教育学校1校を設置予定となっているため、義務教育学校設置に向けて先進市の事例を調査研究することにより、本市の義務教育学校設置の参考とするため。
また、同再編計画により、多数の廃校の発生が予想され、廃校の活用についての先進事例を調査研究するため。
- 【概要】**
 - 千葉県成田市（現地視察：下総みどり学園）
 - 義務教育学校の2校の概要について
 - ・下総みどり学園
平成26年4月から4小学校を統合し下総小学校とし、下総中学校敷地内に設置。施設一体型小中一貫教育校としてスタートし、平成29

年4月から義務教育学校となる。

- ・大栄みらい学園

令和3年4月から1中学校5小学校を統合し、義務教育学校として設立。

○義務教育学校の位置づけ及び目的

学校教育法第1条に規定される学校の一つ。

義務教育学校は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことを目的とする（同法第49条の2）

○下総みどり学園について

- ・「日本一仲良しの学校」を開校時からの目標としている。

- ・教育課程

1～4年→前期ブロック

5～7年→中期ブロック

8、9年→後期ブロックとした4・3・2制をとっている。

- ・5年生から教科担任制を実施

- ・異学年交流の実施

全校縦割り活動として、縦割り清掃、縦割り遊びの実施

- ・通学手段

学校を中心として半径1km以内の児童のみ徒歩通学。7年生以上は自転車通学。その他はスクールバス通学（令和4年2月～現在。大型バス2台、マイクロバス6台の計8コース。約90%の児童が利用。）最も長いルートで往復時間42分間とのこと。

- ・特色ある行事

体育祭、音楽祭を1～9年生の全校体制で実施。

入学式は1年生、卒業式は9年生のみ。その他に、節目の行事として各ブロックごとの最高学年をリーダーとし、前期リーダー、中期リーダー引継ぎ式をそれぞれ実施。6年生では、小学校課程を修了したという意味で、「終了証書」を渡している。

○懸案事項・課題など

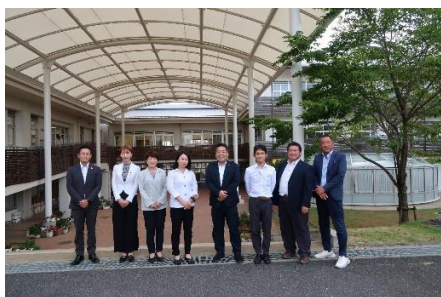
- ・中学生が小学生をいじめるのではとの心配事が保護者から当初寄せられたが、異学年交流や行事などの計画的な交流に取り組む中で、中学生が小学生にやさしく接してくれ、心配が払しょくされた。

- ・学級担任制と教科担任制が混在するため、学校運営の難しさがある。教科担任制が始まる、中期ブロックの担任は、自分の学級の受け持ち時間が短いことに不安を抱く。

- ・職員の人事異動の際、移動してくる職員は普通の小中学校からの異動であるため、義務教育学校に慣れるまでに時間を要する職員が多い。特に中学校の教諭は、低学年の児童の指導に慣れておらず戸惑うことが多く、学校の理念のすり合わせに難しさを感じている。

- ・子どもたちが仲良くなりすぎて、中学生にあたる年代にとっては、中学生らしい厳しさ、上下関係がなくなるのではと懸念もあるが、低学年の児童

と過ごすことにより、通常の中学生より、早く成長し大人のようにやさしく接することができる子にそだてられていると考えている。



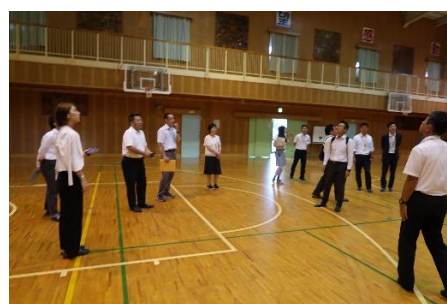
下総みどり学園前



研修の様子



校舎内見学の様子



体育館（空調完備）見学の様子

2. 茨城県行方市（現地視察：らぽっぽなめがたファーマーズビレッジ）

○施設開場までの経過

- ・平成17年、白ハトグループの「おも株オーナー制度」の農園に行方市が加わる。
- ・平成20年、JAなめがたの継続契約を締結時に加工工場の誘致。市の課題である学校跡地とのマッチングへ。
- ・平成24年、補助事業導入のため、県がプロジェクトチームを発足。JAなめがた、(株)しろはとファーム等の出資による農業法人「(株)なめがたしろはとファーム」を設立する。
- ・平成24年6月以降、市議会及び地元説明会を数回開催。
- ・平成25年、農林水産大臣から総合化事業計画の認定を受ける。
- ・平成26年、農山漁村6次産業化対策事業助成金交付決定
- ・平成26年1月臨時会にて財産譲渡の議案が可決（土地約2.1ha、校舎約1,700㎡、体育館、その他）
- ・平成26年2月に工事着手
- ・平成27年10月30日グランドオープン

○事業の成果

- ・耕作放棄地の再整備が進み、環境が大幅に改善。
- ・年間21万人超の来場者で、新たな交流人口、経済効果（以前は観光人口10万人）

- ・「はとバス」はじめツアー客も増加
- ・商業棟はイタリアンレストラン、マルシェ、らぼっぽで連日にぎわう。
- ・ミュージアム棟は、教室の再利用で学校の面影を残しながら、サツマイモの歴史や効能のPRを実施（「地元の思い」への対応。施設入り口には学校名を残したままの校門がそのまま使用されている。）
- ・新規雇用者200名中150名を地元雇用。市内移住者も。
- ・ハスといもの認定農業者が増えている。
- ・東京ソラマチ及び行方市内で「サツマイモオーナー制度」を実施。

○学校跡地利用について

- ・もともと、学校であるので、近隣住民に配慮し跡地利用の公募の際は、音やにおいの伴うものは省き、工場団地を提案することとしている。
- ・企業誘致したものについては、白ハト食品工業(株)のほか社会福祉法人や金属加工会社、コンクリート製品会社、建設資材製造会社などに売却または貸付している。



市庁舎での研修の様子



行方市議会議場



らぼっぽなめがたファーマーズビレッジ前



研修の様子



ミュージアム内見学の様子①
(校舎を活用した展示)



ミュージアム内見学の様子②
(校長室をそのまま活用)

7. 所感

1. 成田市の義務教育学校の取り組みについて

泉南市では泉南市立小中学校再編計画を進めて行く上で、現在、西信達小学校と西信達中学校の統合並びに義務教育学校設置に向けて準備を行っている。

そのような経緯の中、先進的に取り組まれている千葉市の下総みどり学園に赴き、学校施設の見学や現場の声を聴かせて頂いたことは、今後の泉南市の取り組みにおいても非常に参考となるものでした。

当日は、成田市の教育長を始め教育委員会の方々並びに、学校長や教職員の多くの方々に出席頂き、意見交換をさせて頂いた。

各議員からも活発な質問があり、研修終了後には教育長より「こんなに沢山の質問を頂くとは思ってもいなかった。」と感想を頂く。

小中一貫教育では、前期・中期・後期と9年間で3ブロックに分け異学年交流を活発にし、学年を越えた交流を行っている点は魅力でした。

また、5年生から教科担任制を実施し、職員室の配置では、教職員同士が情報を共有しやすい工夫などが見られた。

学校施設では、それまで使用していた校舎を改修すると共に、新たに建て増しを行い学校施設としては、広大な敷地に大変ゆとりのある校舎の配置となっていた。

各教室はオープンな造りとなっており、通常、教室への出入口は前と後ろの2か所であるが、この学校はパーティション方式を採用していた。そして、廊下も広いスペースを確保し全体的なゆとりと落ち着きを感じた。

更には、体育館は2棟設置されており、中でも、1棟は空調が設置されていて、非常に快適さを感じた。因みに中学校の対外試合はこの学校で行われることがほとんどとのこと。

全体的な感想としては、子どもにとって学校生活を如何に過ごす環境を作っていくのか。あらためて基本的なことをしっかり踏まえたことを考慮しながら新たな学校作りを目指してまいりたい。

2. 行方市の廃校を活用した事業について

行方市へは、泉南市立小中学校再編計画を進めて行く上で、小中学校の統廃合を行った際の跡地を見据えて、らぽぽなめがたファーマーズビレッジの現場視察も

かねて行ってまいりました。

まず、市役所での研修には宮内議長並びに担当職員からこれまでの学校跡地の活用について研修頂き、その後、なめがたファーマーズビレッジに移動し現地視察を行った。

行方市は、平成17年に3町が合併し誕生している。人口は約3万2千人。世帯数が約1万3千世帯。面積が泉南市の約4倍強の約222㎢と広大で肥沃な土地を有している。

行方市は、毎年500人の人口減少があるとのことで、この間、学校の統廃合を実施し、当初22校あった小中学校を7校にし、平成26年3月に行方市立小・中学校跡地利用実施計画を策定しています。

現在、その跡地利用計画を推進し、旧大和第三小学校跡地を食品加工会社「白ハト食品工業(株)」に売却し、現場視察を行った「らぼっぼなめがたファーマーズビレッジ」をオープンしている。

その他には、社会福祉法人の認定こども園や金属加工会社の工場の誘致。地元コンクリート製品会社への貸し付けや建設機材製造会社への売却などの実績があります。

また、法人や会社への売却等だけではなく、市有効利用として文化財の保管場所や防災備蓄倉庫としたり、新たに幼稚園としての活用もしているとのこと。

つまり、元々肥沃な土地を活かしたサツマイモを更にまちの特産として利用し、ファーマーズビレッジをオープンさせたり、認定こども園や幼稚園を開園したり、単純に売却したり貸し付けたりと、事業を展開する上でそのニーズと地域性を考慮した、戦略的な跡地利用を展開していると思われまます。

さて、らぼっぼなめがたファーマーズビレッジは、工場棟とミュージアム、商業棟の3棟が建ち並び、旧校舎は主にミュージアムに使用されていました。

きっかけは、行方市が白ハトグループの「おいも株オーナー制度」の農園に加わったことであり、JA なめがたや補助事業導入の為茨城県がプロジェクトチームを発足し「(株)なめがたしろはとファーム」が設立しています。

官民連携による一大プロジェクトによって誕生されており理想的な事業の展開と感じました。

サツマイモを見直し、食文化の向上と食育の推進。まちおこしにまちの活性化等、廃校を使用した事業として素晴らしく、是非今後の泉南市にも生かしてまいりたい。